



新潟県生産性本部会報

発行:新潟県生産性本部 会長 森 邦雄

No.17 夏号

2024

ご回覧ください

NPC NEWS

明日に向かって



表紙写真:「長岡花火」 米山 哲也 (新潟県長岡市)撮影

contents

- P2-P3 2024年度総会・記念講演会・交流会を開催!
- P4-P6 第17回 リレーエッセイ
「チームの力をひきだす解決志向コミュニケーション」
公認心理師、産業カウンセラー 勝川 佐江子
- P7 公開研修7月以降のコースのご案内
企業内教育(社内研修・講演会)講師派遣プログラムのご案内
- P8 会員紹介 東北エネルギー懇談会
(本部:宮城県仙台市、新潟事務所:新潟市中央区)

新潟市中央区新光町7番地2 新潟県商工会館4階 ※新潟県庁近く

電話 025-290-7127 FAX 025-290-7821



NIIGATA-KEN PRODUCTIVITY CENTER ホームページQRコード
<https://www.n-seisanseihonbu.com>



2024年度総会・2024記念講演会・交流会を開催!

【総会】

6月5日(水)、新潟グランドホテルにおいて、2024年度通常総会(役員会)を開催しました。

開会にあたり、森会長より挨拶、そして、笠島新潟県副知事様よりご祝辞をいただき、審議に入りました。

議案審議では、2023年度の事業報告と収支決算、会計監査報告ならびに2024年度の事業計画と収支予算、各役員について審議され、全会一致で可決、承認されました。

また、2024年度の新役員、新入会員の方の紹介をいたしました。

ご多忙の中、総会にご臨席いただきました皆様には改めて御礼申し上げます。

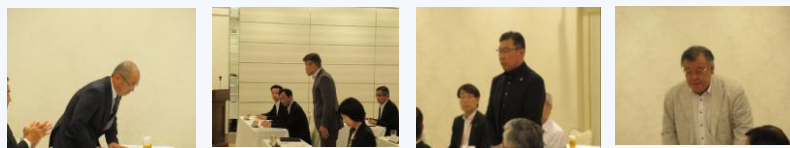
今後とも一層のご協力・お力添えをお願いいたします。



新潟県副知事 笠島様よりご祝辞をいただきました!



当本部会長の森より会員の皆様にご挨拶させていただきました!



役員を紹介(新任)、新入会員様をご紹介させていただきました!

～2024 新入会員のご紹介(2024.6.5 現在) ～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

- ・東北エネルギー懇談会 様 (宮城県仙台市(本部、新潟市中央区(新潟事務所))
- ・株式会社トップライズ 様 (新潟市秋葉区)

よろしくお願いたします♪

【2024 記念講演会】

同日、同会場で新潟市江南区出身の元NHKアナウンサー 齋藤洋一郎さんを講師にお招きし、「一流の条件」と題して講演会を開催いたしました。当日は、当本部会員をはじめ、経済界、行政機関、大学の方々からご参加いただき、盛会となりました。

齋藤さんは、1974年にNHKに入局し、主にスポーツ実況中継で活躍してこられました。その経験から、数多くの選手や指導者との交流を通じて学んだ一流選手で活躍できる条件について、有名な一流選手の名前も交えつつ、講演していただきました。

一流選手になるため、一流選手を維持していくためには何が必要なのか。また、指導者として一流選手に育成するには何が大切なのか、スポーツ分野に留まらず、社会人としての重要な気づきを与えていただきました。

齋藤さんによると、一流選手になるための三つの条件とは、「本人が強い願望を持つこと」、「自分自身に厳しいこと」、「いい人とのいい出逢い」が大切とのことでした。

ご後援いただきました新潟県様、新潟経済同友会様、新潟県中小団体中央会様、日本労働組合総連合会新潟県連合会様 ありがとうございます。



3

【交流会】

講演会終了後、講師の齋藤さんを囲んで交流会を開催し、大変盛り上がりました。

ご参加くださいました皆様ありがとうございました。

皆様との交流を大切にさせていただければ幸いです♪



■ 第17回 エッセイ

「チームの力をひきだす解決志向コミュニケーション」

勝川 佐江子

皆さま、こんにちは。初めまして。公認心理師の勝川佐江子です。

私は企業内カウンセラーとして、社員の皆さんのお話を伺ったり、コミュニケーションやメンタルヘルス関連のセミナーを提供したりしています。

皆さんは、日々それぞれに工夫を凝らしながらチームメンバーと会話・対話しつつ、さらに成果を生み出す職場づくりに尽力されていることと思います。より良い人間関係を築いてチームワークを醸成し、メンバーがクリエイティブに能動的に仕事ができる環境をつくっていくにはコミュニケーションが必須です。

『チームメンバーのAさん、タスクの進捗が大幅に遅れています。報告も滞りがち・・・』

こんな時、皆さんはどのようにAさんに声をかけるでしょうか？

「どうしたの？」 「なんで遅れてるの？」 「なんで報告しないの？」 「何が問題？」

こんなふうに遅れている理由、できていない原因を訊ねることが多いと思うのですが、いかがでしょう？

訊ねる側は特に他意はなく、できていない原因、理由を訊いているだけだとしても、受け取る側が、「えっ?! 私って責められてるの? 詰められてるの?」と感ずる場合があります。

－私だってタスクは複数あって、優先順位つけてやってるんですよ。

－そのタスクって、Bさんの仕事だったですよ。急に私に回ってきて大変なんですよ。

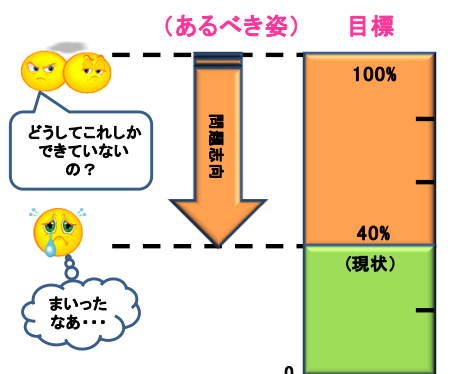
－・・・・・・・・・・・・（無言）

4

私たちは問い詰められている、追い詰められていると感じると、時に、攻撃的になったり、言い訳をして自己防衛したり、殻にとじこもったり、闘争、逃走行動に走ります。これは動物としての本能です。

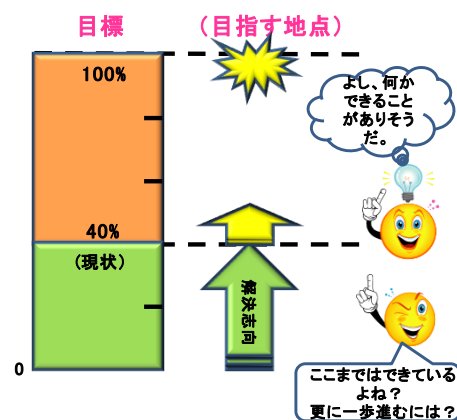
下の図をご覧ください。

問題志向



問題志向
「不足、できていない事、その原因」に焦点

解決志向



解決志向
「今あるもの、できている事、可能性」に焦点

目標に対して、4割達成、6割が未達です。

「できていないこと、不足、その原因」に着目すると、次のような会話が生まれがちです。

- －まだ4割しかできてないの？ なんで？
- －なんでやらないの？ なんてできないの？
- －あと6割どうするつもり？



一方、
「できていること、今あるもの、可能性」に焦点をあてると、会話はどのように違って来よう？

- －何ができているの？
- －どうやってできたの？ どんな工夫をしたの？
- －ゴールに一步近づくために何ができそう？



有効な問いかけは、相手の可能性と主体性を引き出し、建設的なディスカッションへと発展します。

今回は、協働関係を促進する理論&コミュニケーション技法として発展してきた解決志向（SF：Solution Focus）をご紹介します。問題志向と解決志向、どちらがいい、悪いということではありませんが、プリンターが壊れた、システムの不具合が発生したといったモノが対象の場合は問題志向、一方、人の行動や人間関係、心理的問題が絡んでいる場合は解決志向がより機能することが多いと思われます。

時と場合に応じて、適宜使い分ける、或いは組み合わせたハイブリッド型など、うまく活用しコミュニケーションのバリエーションを増やしていきましょう。

解決志向とは、問題を深く追求、分析する代わりに、どうなりたいのか、何を手に入れたいのか、といった未来イメージを創造し、何ができているのか、どうやってできたのか、一步前に進むために何ができそうかというリソース（資源・可能性）に焦点をあてる手法です。1980年代半ばに、アメリカの家族療法セラピストによって開発されたセラピー手法（ソリューション・フォーカスト・アプローチ（SFA：解決志向アプローチ）が源流です。それまで行われていた伝統的な精神分析療法では、症状を改善するのに数年をかけて100回以上の面談を要していたのに対して、2、3回の面談で症状が改善するという事例が報告、蓄積され、1990年代後半からはビジネス領域においても活用が始まり、組織開発技法としてヨーロッパを中心に発展してきました。

解決志向の基本ステップは非常にシンプルです。

- ①解決像を描く。ゴールを明確にする
- ②リソース＝資源、可能性に着目する
- ③具体的な行動目標を設定し、実行する

ゴール → リソース → スモールステップと覚えて下さい。

ゴールを設定する際のポイントはいくつかあります。

*必ず肯定形で表現する

*具体的、客観的で、シンプルなもの（達成したかどうか誰にでもわかるもの）

*自分でコントロールできるもの（他者に依存しないもの）

*実現可能なもの 適切な大きさのもの

時々、「メンバーが自発的に行動するようになる」といったゴールを設定する方がいますが、この場合、達成するかどうかはメンバー次第ということになります。そうではなくて、「メンバーが自発的に行動するチームをつくる」というふうに設定してください。そのために、自分は今後何をするのか、今何ができているのかを考えていきます。

リソース（資源、可能性）に着目するというのは、解決志向の中核ともいえる要素で、「コンプリメント」と呼ばれています。

コンプリメントは、辞書によると、「賛辞、褒め言葉」とありますが、解決志向の枠組みでいう「コンプリメント」は、ただ単に褒めるということではなく、「相手が内外に持っているリソースを本人にフィードバックする」ことです。

具体的には、

- ①相手の資源を見つけ、敬意をもって労い、言葉で伝えること
- ②「いいな」と純粋に感じたことを素直に言葉で伝えること

事実に基づいて、結果（できたこと）だけではなく、背景やプロセス（努力や思い等）を具体的にコンプリメントすることが重要なポイントです。適切なコンプリメントは、相手の可能性や自己肯定感を高め、さらに一歩前に進むエネルギーを生み出します。

例えば、

- － 30分早起きして勉強する時間を作っているなんて素晴らしいですね。
 - － 質問すると、いつも例を挙げてわかりやすく説明して下さるので助かっています。
 - － ○○さんの笑顔を見ると元気が出てやる気が湧きます。等
- ダイレクトにコンプリメントをするのが苦手、不得意だという方もいらっしゃるかもしれません。そういった場合は、質問をうまく使って下さい。

例えば、

- － どうやって時間をつくっているの？
 - － ○○さんが大切にしていることは何ですか？
 - － あきらめずに続けているのは何があるから？
 - － 一番実現したいことは何ですか？等
- 価値観や信念を訊ねるのも有効です。

答えることによって、自分自身のリソースが確認でき、まだ気づいていないリソースを発見することもあります。そして、前に進んでいこうという原動力が生まれます。

6

「人と接する時はいつも最初によいところから見よう」

心理療法家 インサー・キム・バーグ

「ひとは肯定された時に変化の余裕をもつ」 心理学者 高工 弘田貴

「できていないところを指摘するより、解決を作っていく方が難しくて尊い」

フットサル 指導者 ミゲル・ロドリゴ

皆さん、解決志向を日々の業務、例えば、メンバーとの1on1、目標設定ミーティング、進捗報告会などに、また、ご家族との会話のなかに、コミュニケーションのひとつとして取り入れてみてはいかがでしょうか。

そして、周囲や、自分自身に起こる気持ちや行動の変化を観察、実感してください。

～参考文献

「解決志向ブリーフセラピー」 森俊夫/黒沢幸子著 ほんの森出版

「解決志向の実践マネジメント」 青木安輝著 河出書房新社

「ソリューション・フォーカス」 マーク・マカゴウ+ポール・ジャクソン著 ダイヤモンド社

勝川 佐江子 SAEKO KATSUKAWA

公認心理師、産業カウンセラー、通訳ガイド(英語)
小中学校教員、JICA研修監理員を経て、外食チェーンにて組織開発、社員教育に従事。キャリア支援制度を構築。
現在は企業内カウンセラーとして、カウンセリングを行うとともに、コミュニケーション・メンタルヘルス関連のセミナーを実施している。



☆公開研修 7月～10月開催のコースのご案内

新しい価値を創造し未来を拓くリーダーの育成、若手・中堅社員の離職防止、雇用労使安定など、皆様の課題解決に向け、公開研修を開催いたします！是非ご参加くださいますようお願いいたします。

7月10日(水) 半日コース	対人関係適応力アップ！コミュニケーション研修 ～働きやすい職場実現のために～	菊野 麻子 氏 (元 NST 新潟総合テレビアナウンサー)
7月17日(水) 1日コース	顧客増と従業員満足のためのビジネスデータの分析と活用	勝川 宏明 氏 K-コンサルティング代表
8月6日(火) 1日コース	リーダーシップ実践コース ～多様化する人材を活かし導くリーダーのあり方～	星名 英樹 氏 (公財)日本生産性本部 カウンセリングマネジメントセンター
8月20日(火) 1日コース	自分が起こしたエラー～学ぶ_ヒューマンエラー対策 ～ヒューマンエラーを繰り返さないために～	三宮 直人 氏 バリュー・プロダクツ 代表
9月5日(木) 1日コース	コーチング・OJT 実践コース ～部下の活躍を促進し、成果と成長につなげる考え方とスキルを学ぶ～	星名 英樹 氏 (公財)日本生産性本部 カウンセリングマネジメントセンター
9月10日(火) 半日コース	キャッシュフロー(CF)計算書の見方・読み方 (特典:CF 計算書簡易作成ソフト提供)	江部 誠一 氏 パートナーズコンサルティング 代表
9月12日(木) 1日コース	心に火を灯す PEP トークスキル ～主体性を引き出し離職も防ぐコミュニケーション～	栗林 裕也 氏 (公財)日本生産性本部 人材開発コンサルタント
10月 3日(木) 10月22日(火) 連続しない2日コース	管理職基礎コース ～持続的に職場の目標を達成するためのリーダーシップと マネジメント力の強化へ！～	栗林 裕也 氏 (公財)日本生産性本部 人材開発コンサルタント
10月17日(木) 1日コース	若手社員フォローアップ研修 ～最後のチャンス!信頼されるビジネスパーソンの基本～	山田 節子 氏 株式会社マナース 代表取締役

【新潟県生産性本部の公開研修の特徴】

- ◇少人数制で講師、参加者との積極的な交流を通じ、相互啓発を促します。
- ◇2日間コースは職場での実践を挟んだ研修となっており、1回目に学んだことを職場に戻って実践いただき、2回目の研修に参加いただくことで、より高い研修効果が期待できます。
- ◇グループワークが多く、他の参加者の意見や問題点、解決策を知ることができ、考え方や取組姿勢なども含め、新たな気づきを得ることが出来ます。
- ◇経験豊富な講師の体験談なども聞くことができ、休憩時間や研修終了後の講師への質問もしやすいです。
- ◇様々な業種の方にご参加いただいていることから、異業種交流の機会も広がり人脈や知識が広がります。
- ◇全コース修了証を授与しています。
- ◇お得な割引制度があります！※同一コース3名以上は1名につき1000円、5名以上は1名につき1500円受講料を割引いたします。
- ◇1日以上コースはランチ・ワンドリンク付、半日コースはワンドリンク付です。 など



※研修カリキュラムなどの詳細はホームページをご覧ください。

☆企業内教育(社内研修・講演会)講師派遣プログラムのご案内

皆様方の組織の経営課題に向けた研修プログラムの開発・実施をお手伝いいたします。

人材育成のトレンドから階層別研修など、社内研修や講演形式のセミナー、記念講演会講師派遣などご要望に応じて、ご提案いたします。 先ずはお気軽にお問い合わせください(*^▽^*)♪



〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央二丁目 8-13
大和証券仙台ビル 10F
TEL 022-267-0021 / FAX 022-224-8163
HP: <https://www.t-enecom.com>



2024年度定時総会

東北エネルギー懇談会さまに

Q&A

Q1 組織の事業内容について教えてください!

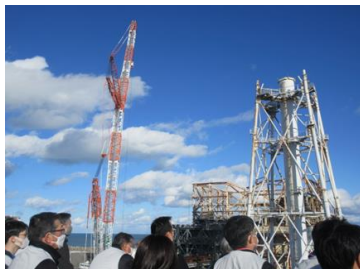
A 当会は原子力を含めたエネルギー全般に関する情報の提供を通じて、エネルギー問題に対する理解の輪を広げ、東北6県および新潟県の社会経済の持続的な発展に寄与することを目的とした団体です。

本部を宮城県仙台市に、新潟県新潟市にも新潟事務所を設置し、約280の会員企業・団体等の皆さまにお支えいただきながら、各種活動を展開しています。

主な活動として、エネルギー問題等をテーマとした講演会の開催や講師の派遣、タイムリーかつ正確で客観的な情報をお届けする広報誌「ひろば」の発行や会員を対象としたエネルギー関連施設の見学会を開催しています。また、東北放射線科学センターと連携して、放射線について正しい知識を身に付けていただくよう、中学生・高校生・大学生や一般の方を対象とした理科教室、放射線基礎講座を開催しています。

新潟エネルギー市民懇談会
における講演会

広報誌「ひろば」522号・特集記事

COP28と2024年の
日本のエネルギー政策の課題

福島第一原子力発電所見学会



小学校における理科教室

Q2 組織の理念や行動指針について教えてください!

A 2019年の創立60周年を機に、新しい理念、「～キーワード『未来へ』～かけがえのない美しい地球と確かな未来のために、私たちはバランスの取れたエネルギー構造の重要性を広く発信し、理解の輪を広げてまいります!」を掲げています。

Q3 組織が一番力を入れていることについて教えてください!

A 資源に乏しい我が国におけるエネルギーを考える上では、安全性(Safety)を大前提として、安定供給(Energy Security)、経済効率性(Economic Efficiency)、環境適合(Environment)を同時に実現する「S+3E」の観点から踏まえた、多様なエネルギー源を組み合わせる「エネルギーミックス」が重要であると考えています。

当会では、「エネルギーミックス」の重要性を広く社会に向けて情報発信するとともに、未来に向けた、次世代の人材育成にも注力しています。

Q4 代表者様からメッセージをお願いします!



会長 錦田真孝

A おかげさまで、今年、東北エネルギー懇談会は創立65年を迎えることができました。

今後とも、これまで培ってきた地域の皆さまとのネットワークを活かして各種活動を展開してまいります。また、当会では事業活動にご賛同いただける会員企業・団体さまを募集しています。会員の皆さまには、広報誌「ひろば」をお届けするとともに、講演会やエネルギー関連施設の見学会のご案内を差し上げます。国際紛争によるエネルギー価格の高騰や、脱炭素社会に向けたグリーントランスフォーメーション(GX)への対応など、エネルギー問題は私たちの生活に密接に関わる問題であり、今こそ、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動していく時です。我々と一緒にこれからのエネルギーについて考えてみませんか。

この会報を通して、会員の皆様をご紹介させていただきます。企業団体様のPRの場としてご活用いただくと幸いです。このたび、ご協力いただきました東北エネルギー懇談会様 ありがとうございます。
新潟県生産性本部では、会員を募集しています。お気軽にお問合せください。

制作・発行 新潟県生産性本部 会長 森 邦雄

編集等担当 長谷川 mail: info@n-seisanseihonbu.com